

長野県革新懇ニュース

2019年12月号
発行日12月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 0510-3-15971

247

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 赤羽貞幸さんインタビュー
- 2面 1面続き、近現代信州の歴史回廊
- 3面 台風19号水害ボランティア報告
読者の声、その他
- 4面 「雨よ降れ」「はるかなり『青春』」窪島誠一郎さん
映画評論「ひろしま」内山到さん
漢字パズル

長野県革新懇

検索



1946年辰野町生まれ。1973年～2015年信州大学勤務。1999年信州大学教授、2003年～2007年信州大学教育学部長、2009年～2015年信州大学理事・副学長。現在、長野県立大学経営審議会委員、苗場山麓ジオパーク学術指導委員会委員、信濃町立ナウマンゾウ博物館協議会委員、野尻湖発掘調査団顧問。専門：地質学(第四紀地質学―大地の生い立ちの解明)

災害大国の日本が世界の

減災施策をリードすべき

あかばね さだゆき さん
赤羽 貞幸 さん

(信州大学名誉教授)

想定外ではない

今回の災害

Q 今回の大災害について、どうお考えでしょうか？

「想定外の水害」ということが言われていますが、私は想定外ではなかったと思っています。本州全体をおおう超大型の台風で雨量もこれまでになく多いと予想されていたわけで、気象庁の予想に近い雨量が記録されました。その結果、長野県下では千曲川本川の越水が16か所、決壊は小さいところも入れて6か所という甚大な被害となりました。水がつくと、大きな被害になります。特に床上になると、家屋はもとより電化製品や自動車、農機具などが使えなくなり、生活そのものが成り立たなくなります。千曲

Q 甚大な被害が発生した背景についてはどのようにお考えですか？

河川氾濫の直接的な原因はやはり、既存の河川の容量を

大量の出水が
短時間に集中

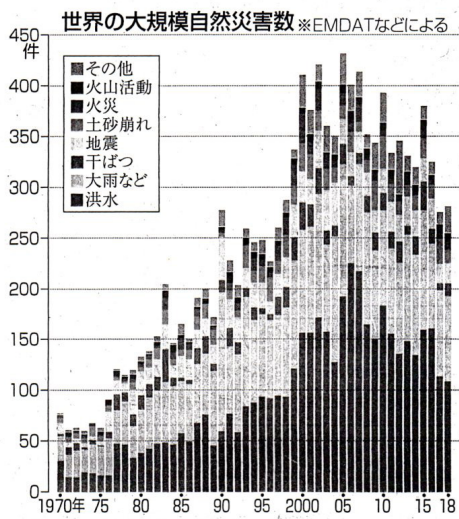
川が決壊した長野市穂保地区一帯では、国道沿いの商店や工場、大手の店も大きな被害を受けました。災害ゴミやドラの処分問題も深刻です。さらには下水処理センターも洪水の影響で機能低下してしまい、直接的被害は免れた周辺地域でも下水道の使用が今でも制限されています。

また、山間部の被害についてはほとんど報道されていませんが、各地の林道の被害が大きく、志賀高原から秋山への林道や栄村の村内の林道も手がつかない状態で通行止めでした。農業被害だけでも数百億円と言われていますが、工業や商業の分野でも大変な被害があることは確かです。

穂保地区の決壊については、中野の立ヶ花で狹窄している地形的な要素は大きいと言えます。ただ、先ほど述べたように千曲川の各地で越水や決壊があったわけですから、全体として水量が多かった影響が大きいと言えます。

温暖化で世界的に
自然災害が急増

温暖化世界の災害急増 国連「40年で倍以上」



2019年11月6日付信濃毎日新聞夕刊より

地球温暖化に伴う二酸化炭素(CO₂)など温室効果ガスの増加が原因で、地球の平均気温が上昇する現象。干ばつや巨大台風が頻発する原因になるとされ、海面の上昇や異常気象による食料不足につながる恐れがある。各国は被害軽減を図るため、21世紀後半に世界の温室効果ガス排出を実質ゼロとし、産業革命前からの気温上昇を2度未満に抑えることを目指す温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」を2015年に採択したが、経済活動への悪影響を懸念するトランプ政権は今年4月、離脱を国連に正式に通告した。

Q 地球温暖化との関係はどう考えるべきでしょうか？

最近温暖化の影響を実証的に明らかにして、警鐘を鳴らしている資料がたくさんあります。一つは、温暖化とともに、1970年から2018年にかけて世界的に自然災害が急増しているというデータがあります。もう一つは、温暖化によって地球が緊急事態であるという論文に世界の科学者1万人が賛同しているという内容が新聞記事となっています。米国でベストセラーになった本でも、環境問題の中で地球温暖化が一番の問題だと指摘されています。

私は温暖化について直接研究しているわけではありませんが、顕著なことは海水温の上昇で大型の台風ができやすく、秋の終わりの時期でも台風が生まれています。また、南極の氷床が融け、北極の水山も融ける、アルプスの氷河が確実に小さくなっているというような現象が起きています。一方では異常な乾燥が起きていてところもあります。地質学は過去の気候変化を研究しています。それによると、今から過去1万数千年の間は、過去の歴史になくくらい安定した気候変化の少ない時代だったことがわかっています。それが今、狂いだしてきていると指摘されています。

地球温暖化と世界的な大規模災害の発生とが関連しているという考え方は、もう当たり前になってきています。今までなら100年あるいは200年に1度という災害が、今後は常態化し数年に1度発生する可能性があります。非常に恐ろしい事態です。

このようなことも前提に緊急に総合的、長期的な対策が必要な時期になっていると思います。

徹底すべきは水を
集中させないこと

Q どのような対応が求められるのでしょうか？

豪雨や台風を人間の力でなくすることはできません。また、堤防等を強くすればよいというわけにもいきません。具体的水害対策としては、「出水を集中させない」という遺作を徹底すべきです。どこに家でも屋根に降った雨を水路に流しますが、本来、敷地の中に水をしみこませるべきです。また、塩田平のため池のようにいたるところに遊水地などをいっばいつくる、休耕田を積極的に活用する、森林を整備するなどして、水を一時的に貯めて水が集まるピークをずらすことが大切です。自分の土地の建坪×1mの体積の水を各戸で確保することを義務付けるなどといったことも考えられます。

地震や地球温暖化問題などに関心を持ち不安感を抱いている人は結構おられるでしょうが、身近な問題としてリアルに意識されているかという、必ずしもそういう状況ではありません。自分の住む地域にどんな危険性があり、緊急時にどんな対応をとるべきかどうかがどうあるべきか、たとえば、今回被災した長沼地域は水害の常習地域で、その村史には言い伝えが書かれ、

【2面に続く】